

京都市廃棄物減量等推進審議会
第 6 回新京都市循環型社会推進基本計画策定に係る専門部会
摘録

【日時】平成 21 年 6 月 15 日（月） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 10 分

【場所】職員会館かもがわ 2 階 大会議室

【出席委員】 酒井部会長，浅利委員，池北委員，石田（捨）委員，石田（哲）委員，石野委員，
岡委員，岡田委員，北原委員，佐伯委員，田村委員，中村委員，林委員，
宮川委員，山内委員

【欠席委員】 山川委員，山田委員

I 開会

（事務局）

委員の出席状況の確認

人事異動により変更になった事務局のメンバーの紹介

配布資料の確認

II 議事

（酒井部会長）

本日の専門部会は中間とりまとめを審議いただく機会となっている。昨年から本日を含めて 6 回の部会を開催させていただいた。本日の審議結果を踏まえ，修正を加えた原案を作成の上，6 月 29 日の第 43 回審議会に「中間取りまとめ（案）」として報告する。そこで決定されたものを審議会としてパブリックコメントにかけることになるので，今回の資料の内容に不足がないか確認願いたい。

なお，前回の部会での「中間まとめ（素案）」に対する審議内容を踏まえ，事務局と協議を行い，今後パブリックコメントの実施に向けて，対外的にも分かりやすいものにとという点に心がけて，明確な内容になるように大幅に修正を加えてある。

（1）中間まとめ（案）について

（事務局）

資料 1 について説明

（酒井部会長）

資料の９ページまでが新計画策定の背景、京都市のごみの現状、現行計画の取組の進捗状況、アンケート調査結果といった基礎情報としてまとめられているので、９ページの前と後に分けて議論を進めさせていただきたい。

まず、９ページまでのところで、ご意見をいただきたい。

（岡委員）

８ページの学生アンケートについて、リサイクルに関する具体的な行動について全項目低い結果の理由として、地元でないために愛着が低いことと、マンションの一人暮らしが多いので、知人の住んでいるマンションではごみをまとめて出せるので分別する必要がないことの２点があげられる。そのために意識が低くなっていると思われる。

改善案として、大学でキャンペーンを行うこと等が考えられる。

（酒井部会長）

アンケート調査結果の概要は、基本的にはこれでよいが、ご発言いただいた分別をしにくい事情とそのための注意点等を追記して修正を加えたい。

（田村委員）

２ページに「市が処理しているごみの半数以上を占める事業系ごみは、・・・」について、下のグラフの中に「事業系ごみ」という記述が出ていないので、事業系ごみはどこを見ていいのかかわからない。文章とグラフの表現を合わせた方がよい。

（事務局）

業者収集ごみと持ち込みごみを合わせたものということで、具体的に書くように修正する。

（酒井部会長）

「市収集ごみ（家庭ごみ、資源ごみなど）」というところもグラフと対応していない。全体を通じて対応するように見直しをする必要がある。

（林委員）

１ページの「脱温暖化」について、循環型社会形成推進基本計画では「低炭素社会」という言葉を使用しているのでそれに合わせてはどうか。

また、２ページに「人口一人当たりのごみの排出量の減少・・・」と記載があるので、その推移のグラフを示した方がよい。

（酒井部会長）

「低炭素社会」の表現の仕方は、京都市の他の計画で用いている表現とそろえて修正することによいのではないか。

掲載するグラフについては、新基本計画として必要な事項を浮き彫りにさせるような見せ方も大事ではないかと思われる。

（山内委員）

9ページの「面倒な分別を義務化し・・・」について、分別を協力していただく市民に対して、「面倒な」といった表現は適さないのではないか。面倒と思うかは個人の主観にもよるので。

また、「ごみ発生過程の中間段階である事業者における発生抑制の仕組みづくり」とあるが、これは異業種間の連携を密にさせることが必要。総合的に考えて効率化すればもっとコストが下がると思うので、この表現も工夫していただきたい。

（酒井部会長）

「面倒な・・・」ではなくて、「意義のある分別を義務化し・・・」の方がよいのではないか。

「異業種連携」については、ここではこの表現にしておいて、10ページ以降に内容について入れてはどうか。

（岡田委員）

4ページの「進捗が遅れている。これは・・・」の以降の部分について、逆説的な言い方になっていないか。平成19年度をベースにして記載した方がよいのではないか。

7ページの事業者アンケートの調査結果概要について、「周辺事業者との協働による効果的な資源物回収については・・・」の部分で、「取り組んでいない割合が70%」とあるが、取り組んでいる事業者の方が高い環境意識を持っており評価をすべきである。これは「取り組んでいる割合・・・」もしくは「取り組めていない割合・・・」に表現を変えた方がよい。

（事務局）

ご指摘をいただいた箇所についてはできる限りご意見の趣旨を尊重して修正する。

（池北委員）

5ページの取組指標の達成状況の表中「KES認証」について、市民の認知度が低い、また意味がわからないのではないか。

また、表の進捗状況を示す◎、○、△がどういう基準で判断されているのか、記載する必要があるのではないか。

（事務局）

KESについては説明を追記する。

記号の基準についても、詳細は別添資料1を参照していただきたい。

（池北委員）

目標としてK E Sだけでなく、I S O 14000 やエコアクション21など、幅広く捉えてもよいのではないか。

（酒井部会長）

K E Sの方が独特な要求をしているのであればK E Sにこだわるのも良いが、環境マネジメントの取得を促進する目的でやっているのであれば、それよりハードルの高いI S O 14000を含めてもよいのではないか。

（事務局）

時間的な制約もあるので、そのあたりを含めてできる限りで整理させていただく。

K E Sについては、市民に分かりやすくなるよう、用語の説明を追記する。

（石野委員）

2 ページのごみの減量の理由について、「市民の理解・協力」があったからであり、「市民の理解・協力」という表現もどこかに記載しておいた方がよい。これを読んだ市民は、より一層協力しようという気持ちになると思う。

（佐伯委員）

6 ページ以降のアンケート調査について、学生は対面アンケートをしたので目標数に対する回答率が高いと思うが、市民アンケートは43%、事業者アンケートは32%の回収率しかなく、低い回答率であると思う。アンケートの方法を考え直す必要があるのではないか。

（事務局）

郵送でのアンケートは無作為に郵送しており、市で行っている他のアンケートはだいたい30%ぐらいで、それからみても30%以上の回収率は十分に高いと考える。その他さまざまなアンケート及び統計の取り方があると思うが、統計上も問題なく、今回実施したアンケート調査はスタンダードなものである。

（酒井部会長）

ネットアンケートで類似の設問と、その回答状況を確認して、仮にネットアンケートと違う結果が出たのならば、その違いについて補足説明をしてはどうか。

また、回収率43%が高い数値であるということを、委員の共通認識として持った方がよい。

（中村委員）

5 ページの取組指標の達成状況の表中の進捗状況について、△の項目の表現の仕方、打ち出し方が弱い気がする。

また、「リサイクルショップ」というある一定の業種・お店をここで取り上げて、その利用拡

大の項目の進捗が遅れていると言うのはよくない。この言葉は違うものに変えてはどうか。

（酒井部会長）

△が今の課題を表しているのかは、第1次の基本計画で作った取組指標が適切かどうかということで、これを具体化していくことが今後の課題となる。最終答申に向けて、意見を出していただきたい。

（浅利委員）

4ページの目標値の達成状況について、溶融スラグを含めれば再生利用率は達成できるのか。

5ページの取組指標の表中3段目について、詳細版では、リターナブル容器は項目に入っていないはずなので削除すべきである。

また、詳細版の別添資料1の項目に「単位」とあるが、単位よりは具体的な指標という表現がよいと思う。また、市場規模が1700億円から1200億円に変わっているが、どのように算出しているかを入れたほうが親切である。

8ページの入浴者アンケートの結果の概要について、「京都市内の繁華街と観光地の「まちの美化」について・・・」で、ここでは繁華街がきれいと感じる割合が大幅に減ったことより、「繁華街では54%が22%に減っている」と書いたほうがよい。また、回答の割合が24%とあるのは22%の間違いではないか。

（酒井部会長）

4ページの再生利用率について、溶融スラグを含んだ数値について後ほど事務局から回答していただきたい。

別添資料1の進捗状況の数値について、算定方法を加えて修正する。

8ページの入浴者アンケートの結果の概要について、再度表記について整理して修正する。

私からも1点意見がある。5ページの部分で、「環境に配慮した生活様式・事業活動への変革」を取り上げて、上の部分で書いているが、「ごみ減量化への取組」のまだ達成できていないところを指摘して、修正すべきとしてはどうか。

それでは、引き続き10ページ以降の基本的な考え方・取組について意見をいただきたい。

（石田（哲）委員）

事業系ごみの方が家庭系ごみに比べて遅れていることについて、事業系ごみも有料指定袋制の導入によって、事業系ごみの減量を進めていただきたいと思う。

ごみ減量に関して、あくまでも主役は市民であり事業者であるので、国からライフサイクルの見直しなどと指示されるのはおかしい。メーカーや国に対して、消費者の要望を伝える手段等を検討するべきである。

（事務局）

有料指定袋制の件は、「事業系ごみの減量施策のあり方について」（答申）を昨年この審議会でもとりまとめていただいたが、その中でも将来的にはそういう姿を目指すべきという意見をいただいている。そこで現在、排出業者・許可業者・京都市の３者で協議会をつくり、協議している。

（酒井部会長）

今は、あくまで中間取りまとめの段階であり、基本的な方向性として、事業系ごみの減量化について書き込んではどうかという意見である。事業系ごみ有料指定袋制の内容を新基本計画に盛り込むことについてはよいのか。

（事務局）

最終答申には、有料指定袋制をどうするか、具体的には書くかどうかの論議の必要はあると思う。この中間まとめの段階では、市民意見をいただく段階なので「経済的なインセンティブを強化すべき」等として、意見をもらう方法もあると思う。

（酒井部会長）

了解した。今後のパブリックコメントに向けて、事業系ごみ対策の方向性について、11ページのあたりで何らかの形で入れるようにすることで、調整させてもらいたい。

それから、後半で言われたメーカーや国への要望の部分であるが、これについては、どうか。

（事務局）

メーカーや国への要望は、この一部分だけでなく全体として今後検討していただきたい。

（酒井部会長）

あまり具体的な形が見えない中間まとめの段階で、メーカーや国への要望について詳細に取り決めないほうがよいのではないか。

（石田（哲）委員）

ビールびんは100%近くリユースされていたのに、お酒の小売免許が自由化されて、缶・ワンウェイびん・ペットボトルが増える要素を作ってしまった。循環型社会を作り3Rを推進するのなら、このような過去の出来事を検証すべきだと思う。

（酒井部会長）

今回の中間まとめの中で、具体的に書いておくべきであると考えている項目があれば、教えていただきたい。委員全員が、こういった認識を持っているのなら別だが、中間まとめの中には、特に具体的な記述はしないかたちで整理をしたいと思うが、どうか。

（石田（哲）委員）

具体的な内容については、次回までに考えたいと思う。

（酒井部会長）

了解した。

（宮川委員）

10ページの（2）目指すべきまちの姿について、京都市の役割としてコーディネーター役という部分について、その表現を文章の中に入れるべきである。

11ページの「取組の具体化に向けたポイント」について、「事業者は効率性や…見直し」の部分の表現は、今の経済情勢等も考えると、直接的過ぎると思う。「顧客にも一定の負担を強いる事業活動」とあるが、商品をトレーに入れて販売すると、トレーの代金も商品の値段に含まれているように判断されてしまう。先ほどのメーカーや国への要望の話も含め、もう少しソフトな表現にしたほうがよい。

（池北委員）

低価格を追求しているのは事業者でなく、むしろ消費者である。消費者が求めるものを提供するのが事業者としての役割であり、「事業者は」という表現は修正が必要ではないか。

（酒井部会長）

表現は吟味する必要がある。効率性を追求するのは重要なことであり、今後も続けていきたいことであるが、ここでいう「効率性」には、経済効率や環境効率など、あらゆる意味の効率性が含まれている。「事業者はより資源効率性や一層の環境配慮を追求したビジネススタイルを追及し」など、今後やるべきことを書く形で整理をかけてほしい。

また、「顧客にも一定の負担を強いる」の表現も修正が必要であるように思う。事業者が全て負担すればよいというものではない。

（浅利委員）

12ページ及び13ページについて、取組の具体化に向けたポイントのところが「強いられる」「求められる」という表現ばかりで、市民、事業者に対しての表現が強すぎるのではないか。

（事務局）

具体的な取組として、プラスになることばかりを書いてしまうと、「それを進めるべきだ」という意見しか集まらないのではないかという懸念もあり、マイナス面や実施にあたっての課題を挙げることを考えた。それを整理したのが、取組の具体化に向けたポイントの部分になる。プラス面とマイナス面を両方示した上で、今後、こういった方向性をとるべきかという点について、ご意見をいただきたいと考えている。

（酒井部会長）

考え方は理解できるが、部会の中で意見として出されているので、その点については、少し配慮した表現に修正しましょう。

特に、留意すべき箇所としては、11ページの取組みの具体化に向けたポイントの1つ目、「少し昔に戻ったような手間や暮らしのさまざまな場面で求められる」、13ページの「市民・事業者への負担を強いることになる」についての部分である。13ページについては、まずは仕組みづくりから始めていき、市民、事業者の負担はその次に来るものとする。

（田村委員）

10ページの図「目指すべきまちの姿」について、2Rはリデュース、リユースを表しているはずだが、図中にリデュースの記載がないので、入れられないのか。

（石田（捨）委員）

10ページの目指すべきまちの姿について、先に2Rについてよりも3Rということを明確に表記した方がよいと思う。2Rが何なのか、先に3Rを示しておかないと分かりにくい。

また、11ページ①の具体的な取組例として示されているコーディネーターの育成や情報提供、自主的な活動のサポートということが、2Rだけでなく、その次のリサイクルの推進においても大きな役割を果たすのではないかと思う。

もう一点、12ページ②について、分別を徹底するには、リサイクルの方向性が見えるようなかたちとして、「リサイクルの見える化」を具体的に表現するべきである。そういうかたちから意識の向上や普及を図っていただきたい。

（事務局）

リデュースに関しては、図中でどう表現するか意見をいただきたい。

また、先ほどの3Rに関するご指摘については、3Rのうちの上流対策としての2Rが特に重要なので、分けて表現している。

（岡田委員）

2Rという言い方をしないで、個別にリデュース・リユースと言えばよいのではないか。世間一般に言われているのは3Rであり、2Rの方が感覚的にレベルが低いように思われてしまうかもしれない。

（酒井部会長）

議論を整理する。前回計画で、2Rの推進ということが既に頭出しされており、今回もその部分は変わらないということである。ただし、11ページ①については、「地域での連携・協働による3Rの展開、特にリデュース・リユースの推進」の方がメッセージを明確に伝えられると思うので、その方向で修正をお願いしたい。

また、10ページの図中、市民、事業者ともに、資源の消費量が減少していく矢印の絵がある

ので、ここにリデュースを入れて修正する方向でお願いしたい。

（石田（捨）委員）

10ページの（2）目指すべきまちの姿について、図中に「市民・事業者の連携」とあるが、「学生」「観光客」の文言を入れると、より京都らしくなるのではないか。

（事務局）

京都市の特性として、学生が多く住んでいる、入洛客が多いということを踏まえて、表現を修正する。

（酒井部会長）

今の部分は、確かにご指摘のとおりであると思う。

基本計画としての一つの柱は、温暖化対策の部分である。環境モデル都市に指定されているという観点で見たときに、具体的な取組について、②地域の特性を生かしたリサイクルの仕組みづくりと③環境負荷や経済性に配慮したエネルギー回収と適正処理システムの構築は具体的に見え始めているが、リデュース・リユースの部分でそれが見えない。

この部分で重要なのは、いわゆる長寿命化、高付加価値化したもの、特に住宅であると考え。住宅の建替えの際に、長寿命化もしくは低炭素化し、それによって価値の高いものを目指す、それが京都らしさであるというようなメッセージが、リデュース・リユースの部分で伝わっていかないと、ごみとの関係では見えにくいものである。①において住宅の長寿命化を加えると、地域での連携、協働による2Rの推進で新たな目玉になる。ただし、他の施策との兼ね合いが難しい。

中間取りまとめ（案）は修正して、29日の審議会の開催前までに委員の方々に送るようにするので確認していただき、最終的な修正に関しては事務局と私にご一任いただきたい。

《部会委員了承》

（2）今後のスケジュールについて

（事務局）

資料2、資料3をもとに、今後のスケジュール（案）、パブリックコメント（案）について説明。

（酒井部会長）

今、事務局より説明があった今後の進め方、パブリックコメントについて、何か質問があればお願いしたい。

《委員からの質問はなし》

（酒井部会長）

今後、審議会での中間とりまとめ後、パブリックコメントを実施する。その後、最終とりまとめに向けて、本日、議論にあがった取組指標、新たな数値目標の設定および施策について、引き続き部会で検討してご意見をいただきたい。

最後に、全体を通して、何か意見があればお願いしたい。

（石田（捨）委員）

現状でごみの総排出量などが現行計画の平成27年度の目標値を達成しているが、これらの数値目標についてはどうしていくのか。

（事務局）

審議会より答申をいただき、新計画を策定していく中で、現状の進捗に応じて更なる高次の数値目標の設定を検討して変更する。

（石田（哲）委員）

「電気の使用量 kWh×0.36、ガスの使用量 m³×2.1」がCO₂の排出量だといわれているが、CO₂排出の意識を持っていただくためには、この計算式を市民に周知が必要ではないかと思う。

（事務局）

こういった算定方法が最もよいのかについては、地球温暖化対策室に確認をする。

（池北委員）

京都市としてカーボンゼロ都市を目標にしているが、これと廃棄物分野のリンクが見えにくいので、分かりやすく理念だけでも示して欲しい。

（事務局）

10ページの（1）計画についてでられている。こういった関係が出てくるのかを分かりやすく表現できるかは検討する。

Ⅲ 閉会